



玉幡小学校 学校だより 第18号

チーム玉幡

令和元年12月12日(木)

学校長 丸茂和也

♪未来を、笑顔でたくましく生きるための力を～新聞記事から～♪

12月も2週目に入りました。1年で一番昼間が短いとされる「冬至」は、今年は12月22日(日)だそうです。その日から徐々に昼間が長くなり、季節は新しい春、新しい年度に確実に向かっています。私は「みの虫」が好きです。みの虫は冬の間に「みの」の中でじっと、新しい春にたくましく羽ばたいていけるように力を蓄えています。そんな健気なみの虫から、力をもらっています。

新しい春に向かって動き始めている今日この頃です。子どもたちにも、新しい春に、未来に向かって飛び出せる力をより付けてもらいたい、学校と保護者の皆様や地域の方々にOne Team(ワンチーム)になって子どもの幸せを応援していきたいと考えています。今日は先日の新聞記事から、要点を抜き出しながら、お伝えしたいと思います。

経済協力開発機構(OECD)が3日に公表した2018年学習到達度調査(PISA)の結果で、日本の子どもの読解力は前回点数、順位共に下落したそうです。文章を正確に理解し、答えを導き出す力が不足しているとの結果でした。

「数学の本質は計算ではなく、問題文を読解することにあります」人工知能(AI)や読解力の研究で知られる新井紀子教授の言葉で、数学の知識があっても問われている意味が分からなければ本当の学力とは言えない、これまでに読解力を身につける前に、文章を「日本語だから普通に読めば分かる」との認識のまま、文節や句読点の使い方など文章の構造を論理的につかんでいない、そのために文章を感覚で捉える癖がつき理解できなくなっている、と考察しています。

では、読解力を向上させるためには、何をすればよいのでしょうか？

本などをよく読む生徒と、そうでない生徒の読解力平均点[日本の生徒]

※「読む」は月数回以上読む生徒

- 雑誌 読む→502点、読まない→506点
- 新聞 読む→531点、読まない→498点
- 小説、物語、フィクション 読む→531点、読まない→486点
- 漫画 読む→518点、読まない→489点

月数回以上新聞や雑誌などを読む生徒の割合[日本の生徒 2009年と2019年の比較]

- 雑誌 64.6% [2009] → 30.8% [2019]
- 新聞 57.5% [2009] → 21.5% [2019]
- 漫画 72.4% [2009] → 54.9% [2019]

またPISAが、パソコンやデジタル機器の利用状況も尋ねたところ、以下のような結果となりました。

パソコンやスマホ、インターネットをどんなことに使っていますか？[日本の生徒]

- 宿題や学習 6.0% (OECD平均23.0%)
- ネットでチャット 87.4% (OECD平均67.0%)
- ゲーム 47.7% (OECD平均27.0%)

小学校入学段階で既に語彙(ごい)量の差がついている、と指摘されました。学校現場でも「文章を読めない子どもが増えている」との実感は広がっています。教科書などの文字や言葉が本当に読めているのかを見てつまづきを確認したり、文法の誤りを修正したりする論理的な指導が大切になります。

本校では、各学年ごと全校の子どもたちに「玉幡小学校学習ルール」を示して、ご家庭との連携のもと、取り組みを続けてきました。日頃のご理解ご協力のおかげをもちまして、学びの基礎的基本的な部分が定着して、成果を上げています。新しい春に向かって、力をたくわえるために、この玉幡小学習ルールを今一度見直しながら取り組んでいくと共に、自ら学ぶ子どもの育成を目指して、10番の「家庭学習の手引き」を活用して、“自主的に学習する習慣をつけましょう”について着目して取り組んでいきたいと考えます。自ら学ぶ力は、未来を拓く力につながっていきます。

先日玉幡中学校の新海校長先生とお話をしました。小学校と中学校で連携しながら、この地区の子どもたちみんなを大切に育てていきたい、という思いを語っていただきました。新聞記事にもあるように中学校での生活をスムーズに運ぶためには、『基本的な生活習慣が身についていること』『宿題をしっかりとやる、自分で課題を見つけて学習するという学習習慣が身についていること』が大切であるということでした。合わせて『中学校として、小学校と同様に保護者の方のスマホ等に学校からのメール等を配信することはあるが、学校からの情報や部活動の連絡等を生徒のスマホに直接送信することはない』とのお話もありました。

スマホをはじめとするAI機器は、私たちの暮らしをめざましく便利にして、今も絶えず進化を遂げています。そこで大切にしたいのは、スマホだから、AI等の最新機器だから、ということではなく、道具は本来私たちの生活を豊かにするためにあるもの、ということです。日本の伝統を象徴する『包丁』も大変便利で欠かせない道具ではありますが、使い方をまちがえてしまうと、取り返しのつかないことに結びついてしまいます。新しい、古いに関係なく、道具は使う人の心がけ、使い方が何よりも大切である、という思いを深くしています。

冬休み、そして新しい春を前に、ご家庭で、子どもたちの生活について共に考え、聞き、お話をいただければ幸いです。保護者の皆様には、日頃より学校の教育活動に大変温かいご理解ご支援をいただいています、改めて感謝申し上げます。これからも変わらぬお心をいただければ有り難く存じます。何とぞよろしく願いいたします。

♪とても心温まるお話～書写指導、細田華流先生より～♪

12月2日より、近隣にお住まいの細田華流先生に、書き初め大会に備え、全校の子どもたちに、硬筆・毛筆の指導をしていただいています。「うまい、へたは関係ないよ、一生けん命心を込めて書くことが大事なんだよ、みんな上手！玉幡小の子どもたちは一生けん命で、しっかり書いてくれてとてもうれしい」など温かく、子どもたちを前向きにしてくれる指導をしていただきました。短い時間で、一人一人の子どもたちの字が変わっていききました。すばらしいご指導でした。



また、こんなお話をうかがいました。細田先生のお宅の近くの駐車場にペットボトルや紙くずが散らかっていて、あとで掃除をしようと思っていたところ、4年生～1年生男女5～6人が全部きれいに掃除をしてくれたということでした。またその子どもたちがたいへんさわやかにあいさつをしてくれたこともとても褒めていただき、「感動した」とのお言葉をこぼれるような笑顔と共にいただきました。本当にうれしかったです。とても心温まるお話でした。

